

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.71

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

### 教授者中心から学習者中心へー外国語教育の大きな転換と岐路ー

松岡博信

H. E. Palmer が文部省に英語教育顧問として招聘されて来日したのが 1922 (大正 11) 年、すなわち、今から 90 年前のことである。彼の教授法 Oral Method が一世を風靡し、それを日本の教育的土壌に適応させた「福島プラン」など、全国に彼の教授法を実践する多くの英語教師が現れた。この時代を機にして、長らく文法訳読式一辺倒だった外国語教授法も大きな進展が見られたが、外国語のみならず母語についても、言語習得に関する研究はさほど成果を得られないままであった。

そのような時代を過ぎ、Oral Approach によって我が国の英語教育に大きな影響を与えた C. C. Fries が来日したのが、第 2 次世界大戦後の 1956 (昭和 31) 年である。この頃には言語習得に関する研究も進展が見られ、心理学の分野から B. F. Skinner に代表される経験主義に基づく行動主義的言語習得論が、そして A. N. Chomsky に始まる合理主義的な生得説が登場してくる。教授者側のアプローチ、メソッドそしてテクニク的なものに集中していた関心が、やっと学習者の言語習得メカニズムの解明へと移って来たのである。さらに、コンピュータに関する科学技術の発達と共に、記憶に関する認知心理学の分野においてワーキングメモリ (作業記憶) に関する研究も盛んに行われるようになった。認知ストラテジーについても、トップダウン・ボトムアップ理論から相互作用説が生まれ、メタ認知やメタ言語知識など、新しい理論の枝が「外国語教育研究」という大木から加速度的に伸びている。それほど、学習者というものに大きな関心が集まり、そして深まっていると言える。早期外国語教育と ICT 教育などに集約されている最近の教授法研究とは大きな違いである。

Palmer の時代はもちろん、Fries の時代でさえ、学習者の心理・認知にはほとんど焦点は当てられていなかった。しかし現在、言語適性や動機づけ、そして前述した学習ストラテジーに代表される個性および年齢など個人差に関する研究は百花繚乱の様を呈している。これらは喜ぶべきことであることは確かだが、この膨大な労力と手間と時間を要した調査や研究の成果を、学習者中心の外国語教育にまだまだ十分に還元できていないのが現状である。したがってこれからは、外国語教授と言語習得の研究に身を置くものとしては、授業内動機づけ研究のように、教授法・内容と学習者心理・個性との関係を希求し、より良き外国語学習のための理論および教室風土を構築する具体的方策を産み出すことをこれからの目標とすべきであろう。それでこそ、真の「学習者中心の外国語教育」研究である。

(副支部長/安田女子大学)

## 日本英学史学会 中国・四国支部 平成24年度総会 第1回(通算66回)研究例会 報告



県立広島大学広島キャンパス図書館正面にて (2012. 5. 26.)

日本英学史学会中国・四国支部 平成24年度総会, 及び第1回(通算第66回)研究例会は以下の通り開催され, 盛会裏に終了いたしました(参加者19名)。ご参加くださいました皆様に, 心より厚くお礼申し上げます。

### プログラム

日時: 2012年5月26日(土) 12:30受付開始

会場: 県立広島大学 教育研究棟1(1階) 1175講義室

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1-1-71 TEL082-251-5178(代)

### 支部総会 (13:30~13:50)

議長選出, 前年度活動報告, 会計報告, 会計監査報告, 新年度活動計画, 他

### 開会行事 (14:00~14:10)

支部長挨拶

竹中龍範(香川大学)

### 研究発表① (14:10~15:20)

司会: 松岡博信(安田女子大学)

#### 「陸軍士官学校入学試験英語問題にトライ!」

田中正道(広島大学名誉教授)

### 研究発表② (15:30~16:40)

司会: 馬本勉(県立広島大学)

#### 「『出家とその弟子』の「序曲」—原文と英仏訳文との比較考察—」

野村勝美(日本英学史学会 中国・四国支部会員)

### 閉会行事 (16:45~17:00)

副支部長挨拶

田村道美(香川大学)

写真撮影

### 懇親会 (17:30~19:30) 大学食堂にて

研究発表①

陸軍士官学校入学試験英語問題にトライ！

田中正道 (広島大学名誉教授)



【概要】第二次世界大戦に敗れてもうすぐ満 67 年になる。今回、戦前の陸軍士官学校（陸士）の入学試験英語問題を話題提供させていただいた。これくらい歳月が経過すると、こうした教育機関が存在したこと、また、広島に陸軍幼年学校があったことなど、これからの世代に全て忘れ去られてしまうおそれがあると思ったからである。

発表では、まず、陸士の沿革、昭和初期の世情を紹介し、入学試験の概要について解説した。ついで主要部分である英語試験問題の考察を試みた。陸士の性格から設問の題材が **militaristic** であったこと、英文法が出題され受験生の英語学力を幅広く把握しようとしていたこと、英文法が姿を消してからは英文和訳、和文英訳の問題数を増やして、学力捕捉の幅が狭まらないよう工夫していたこと等を指摘した。

【参加者の感想】

◆陸軍士官学校の成立とその経緯について豊富な資料を駆使して詳しくお話が聞けてとても参考になりました。もしできれば海軍兵学校のものとか、旧制中学、旧制高校等のものと比べてその特徴がわかれば興味深いと思いました。<JH4DGW>

◆その当時の歴史的背景が英語を含めて教育に反映しているのは確かにいつの時代でも起こりうることですね。試験問題の内容について、もっと話が聞きたい気持ちでした。ありがとうございました。

<Ryu>

◆陸軍士官学校の歴史の概略が理解できたような気がしました。貴重な研究資料を提示していただき興味が湧きました。入試問題の題材内容と難易度が、当時の受験生の学習レベルと比較してどの程度であったのであろうかとも思いました。何か証言があれば興味深いところです。<三浦省五>

◆戦争と英語教育というと陸士が早々と入試から英語を外したということがよく取り上げられますが、入学後は英語授業が行われていたことは余り語られません。入試から英語を除外する前後でこの英語授業がどう変わったのかをお調べ頂いて入試のもつ意味をこの陸士の場合と海兵の場合などを比べて、いずれ御発表いただければと思います。

<Dragon>

◆旧制高校・海軍兵学校、陸軍士官学校といった、富国強兵を目指した明治の教育改革が、第二次世界大戦期まで、いかに遂行されて来たかを入試問題、世情を参考にして学ぶ発表であった。あくまで研究発表であるが、田中教室の一生徒になった気分で楽しく学習させて頂いた。ユーモア溢れる授業であった。<風呂 鞏>

◆戦時中の青少年の夢は陸士か海兵の生徒になることでした。先生の御発表を通して改めて現代日本の英語教育はどうあるべきかを問われているような気がしました。「コミュニケーション能力の育成」が大きな目標になっていますが、その土台には英文理解の力、和文英訳の力、そして英文法の力の育成が必要です。それらの総合力をいかにしてコミュニケーション場面へ連動させ得るか、英学史学会の大きなテーマの一つでもありましよう。有難うございました。<五十嵐 二郎>

◆今回も陸軍士官学校の入試問題や支那事変の際に発行された賜金国庫債券の貴重なコピーをありがとうございました。

陸軍、海軍の英語教育に関連して、加藤友三郎の存在を知り、興味を引かれました。これから関連資料を読み、理解を深めたいと思います。<Emma>

◆毎回、様々な旧制学校の入試問題を紹介して頂きありがとうございました。倍率が極めて高いのにもかかわらず、入試のレベルがそれ程高くなかったというのは意外でした。<YH>

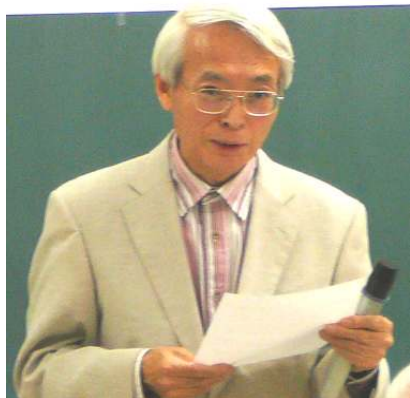
◆田中正道先生の「入試問題にトライ！」シリーズ、今回は陸軍士官学校編ということで当時の時代背景を垣間見ることのできる資料までご準備下さりありがとうございました。「入試問題」からその学校の「英語教育」をあぶりだされる田中先生のマジックは素晴らしいです！ そのマジックから何を導くか・・・大きな課題です。<Rainbow>

◆題材が **militaristic** であったということを豊富な資料とともにお示しく下さり、大変興味深くうかがいました。現代の **English for Specific Purposes (ESP)** にも通じるのでしょうか、扱う素材にはバランスが必要なのでは、と思いました。<Horse>

## 研究発表②

『出家とその弟子』の「序曲」：  
原文と英仏訳文との比較考察

野村勝美 (本支部会員)



【概要】『出家とその弟子』の翻訳者 Glenn W. Shaw が 'INTRODUCTION'(1922)の中で彼の翻訳は逐文・逐語訳であると特筆しているが、なぜそのような特筆をしたのであろうか、もう一つは、他の不備はそのままにしたと云うが、不備は一体何処に起因したのであろうか、これらの疑問を明らかにするため同書の「序曲」(原文と英仏訳文)の分析と考察に、発表者は取り組んだ。仏訳本(1932)にはショーのことばに相当する翻訳者からのメッセージはないが、比較考察を通してそれを明らかにし、さらに英仏両者の翻訳の仕方をめぐって明らかにするため分析と比較考察をすすめ、設定したねらいをしめくくるべく発表を結んだ。

## 【参加者の感想】

◆原文と英仏訳文を綿密に比較されての発表に感心しました。今まで「直訳」「意識」というのは頭にはありましたが、「準直訳」というカテゴリーは初めてで、参考になりました。以前岡山を舞台にした推理小説を3人で翻訳して出版したことがあります、その時直訳的に訳した後、少しでも日本語らしくなるよう直しましたが、その過程で準直訳的な方法を苦労をしたと思い出しました。<JH4DGW>

◆発表においては、翻訳には、直訳、準直訳、意識、とされ、「ショーが逐文・逐語訳に勉める中で」不備はどこから来たかを、翻訳者が「不備はそのままにした」との証言に基づいて探求されたものと理解しますが、翻訳者はできる限り原文を翻訳に取り込みたいという意図があったのではないかという気がします。そのような証言はどこかにないでしょうか。

&lt;三浦省五&gt;

◆「直訳」、「準直訳」、「意識」との分類基準に従って原文と英仏訳とを比べられての御発表で、翻訳論の観点から興味深く伺いました。ただ、「おわりに」にありますように、このような姿勢によってなされた英訳、仏訳を英米人、フランス人が英語、フランス語の作品として読んだ際の印象がどうであったのか、訳者の意図とは別として、当時の書評などがあればそれから分析して頂くと訳のあり方という点で一層興味深いものが得られるかと思われ、ぜひ取り組んで下さい。<Dragon>

◆大学時代、英語の先生が、試験の際「文法的に解釈すると点数が良くなります」と言われたことを思い出しました。野村先生の御発表を聞きながら、「翻訳の難しさ」を今更ながら痛感させられました。文法的解釈=逐語訳=直訳であり、御発表を通して、翻訳は原文からあまり離れることなく、またあまり近づき過ぎない「不即不離」の原則に従う態度の必要であることを知りました。今後の御研究に期待するところ大なるものがあります。有難うございました。<五十嵐 二郎>

◆翻訳の難しさ等を改めて実感しました。でもこの比較研究は膨大な時間と労力を要したと思います。本当に発表者に敬意を表します。今後の研究もお聞きしたいと思います。ありがとうございました。

&lt;Ryu&gt;

◆原文と英仏訳文の詳細な比較考察をされており、大変感銘を受けました。「直訳」、「準直訳」、「意識」を具体的に引用されて掘り下げておられました。また、質問された先生方の異なった視点からの洞察も大変感銘を受けました。原文と訳文の比較考察という視点を教えていただき、英学史研究の奥の深さにふれ大変勉強になりました。<中舛 俊宏>

◆原文と英仏訳との比較は大変骨の折れる作業、ご苦労さまでした。私は倉田百三を専門に研究していない者なので、他の不備(faults)とはどのような不備であったのかをご発表の冒頭で具体的に説明して(解説して)ほしいと思いました。(説明されたのでしたら、ごめんなさい!)それが不明でしたので、不備の余地が一体何処にあったかの解明のお話も分からずじまいでした。<もみじまんじゅう>

◆副題にあるように、英訳と仏文訳とを比較対照しながら、原文理解にも迫ろうという意欲的考察であった。野村先生の『出家とその弟子』研究にかける情熱の物すごさに圧倒された。フロアからの質問にあった英訳者ショーの逐語訳への拘わりの意義、それについての説明をもう少し詳しく聞きたかったことを一言付け加えておく。<風呂 鞆>

◆あらためて、翻訳の難しさや、理想の翻訳のあり方などについて考えさせられました。野村先生の一層の御考察の深まられることを期待しています。

<Emma>

◆仏語訳、英語訳を比較し、翻訳の本質に迫る発表であったと思います。<YH>

◆野村先生の大変な労作に驚いた。またフランス語の発音の素晴らしさにも感動した。英語とフランス語の両方が解せるからこそ成せる業、発表である。先生のご研究の今後の更なる進展に期待したい。

<マッピー>

◆野村先生のご発表は文学の甘い香りの中に「直訳」、「準直訳」、「意訳」への綿密な分析というピリリとスパイスの効いた不思議かつ刺激的な空間を経験させていただきました。また、一つの物事をいろんな側面から分析してみる、という大切なことを教えていただきました。ありがとうございます。

<Rainbow>

◆原文に忠実な上、音読して心地よいショーの英訳ですが、残された「不備」への訳者の思いを想像しながら、大変興味深くうかがいました。倉田百三の文体が「英語のような」響きを持つことから、その忠実な英訳が「日本語らしさ」の漂うものになったとしたら、それはそれで面白い現象だと感じました。英訳を再読してみたいと思います。<Horse>

## 【研究例会全体について】

- ◆1. 何とかして若い研究者の参加をふやしたい。
- 2. 現在の英語教育とのつながり/ 関係の強化の方法も全会員で考えたいものです。<H.N.>
- ◆馬本先生、お疲れ様です。 ありがとうございます。<YH>

◆広島での例会としては少し参加者の数が少なかつたかなと思いましたが。支部活動の発展のためにも検討しなければならないことかと思えます。

<Dragon>

◆支部長の竹中先生が「巻頭言」の最後に訴えられている支部活動の活性化、馬本事務局長先生が訴えておられる『英学史論叢』の火を絶やさないために会員一人ひとりの「自覚」と「自己決定」に期待したい。<五十嵐 二郎>

◆お天気にも恵まれ、研究発表でも活発な意見が交わされ大変よかったです。<Emma>

◆今回の研究例会も馬本事務局長、司会者、幹事の皆さんの素晴らしいチームワークで例会全体が「粛々と」進行しました。発表者として登壇させていただく機会を得ましたが、プレゼン、質疑応答に平常心で臨むことができました。懇親会もこれまた、いつもの通り、大変楽しい集いとなりました。ありがとうございました。<もみじまんじゅう>

◆人数は多くはありませんでしたが、発表者の先生の日頃のご研究の成果をお聞きし、フロアの方の忌憚のないご意見等、いろいろ参考になりました。

また、懇親会は十分すぎるほどのお酒と料理に舌鼓を打ちながら、非常にリラックスした雰囲気でも熱心な先生方とお話しでき、大変いい刺激になりました。研究発表と共に懇親会でのお話の中から自分の今後の取り組みについて示唆を受けることが多く、毎回楽しみにしています。

お世話いただいた事務局の先生、特に馬本先生にはいつもながら献身的なお世話をいただき、本当にありがとうございました。<JH4DGW>

◆遅くなり申し訳ありませんでした。会場準備、運営等、大変ありがとうございました。

<中舛 俊宏>

## 英学史情報ひろば

- ◇田村道美 (2011-2012) 「カッセル国民文庫の書誌的研究」(1)～(3)『香川大学教育学部研究報告 第1部』135, pp.7-21. / 136, pp.15-34. / 137, pp.87-96.
- ◇松村幹男 (2012) 『私の歩んだ軌跡：英語教育への道』『別冊 私の歩んだ軌跡：英学史論考集』(私家版)
- ◇風呂 鞏 (2012) 「シェイクスピア研究に捧げた一生：恩師田村一郎先生の偉業を偲んで」『へるん』49, pp.87-89.

- ◇風呂鞏 (2012) 「海軍兵学校の教官になった西宗久壽馬」『へるん』49, pp.96-98.
- ◇第141～144回「広島ラフカディオ・ハーンの会」ニュース (2012年5月～8月)
- ◇五十嵐二郎 (2011) 「異文化体験から得たもの：ヒューマニズム的生き方」『The Cornerstones』33 (北海道教育大学函館校英語同窓会), pp.1-4.
- ◇三好恭治 (2012) 「漱石の月報八十円の「真実」：外国人英語教師並みの待遇か」『子規会誌』134, pp.5-16.
- ◇「周南英学」の系譜『月刊まるごと周南』2012年6月号, pp.4-15. (浅田栄次, 石田憲次, 岩崎民平)

◇ 森 悟 (2011) 『鳥取の英学』

「洋学小校について」「鳥取英和女学校研究」の2編からなる。

洋学小校は明治4年から6年までの僅かな期間存立した県立の洋学所。そこで教えた2人の鳥取出身の英学教師の足跡、学校の規則、教材、カリキュラム、日課、学習法、生徒数など、学校の様子を浮き彫りにしている。

鳥取英和女学校は明治20年から35年まで存立したキリスト教徒による女学校。明治12年に鳥取で始まるプロテスタント布教以降、説教所を拠点に行われた活動が女学校の胎動であることを指摘する。設立の趣旨、学校規則、教育課程、英語授業の様子に続き、教員・生徒について詳細な記述がなされている。さらに閉校への経緯や学校の存在意義を分析し、胎動から閉校までの詳しい年表がまとめられている。

膨大な資料にもとづく詳細な記述によって、明治期に短期間だが存在した学校の全体像に迫る論考である。こうした学校が明治期の全国的な英学熱の高まりとともに存在し、慶応義塾の影響、あるいはキリスト教の布教を背景として持つという点は興味深い。全国各地に共通点を持った学校があるからだ。明治期に私の勤務地近くに存立した庄原英学校との共通点も見出すことができる。

各地域での英学の芽生えを詳述し、それを比較検討することで我が国の英学史研究は一層進むことと思われる。そうした我々の支部の研究を活性化させる点からも、鳥取の英学を詳らかにしようとする本書は意義深いものである。(馬本 勉)

『鳥取の英学』をご希望の方は、住所とお名前を森先生までご連絡ください。(1部1,000円。振込用紙を同封くださるそうです。)

森 悟 先生

(e-mail) mori\_st@mailk.torikyo.ed.jp

※森先生のご住所・お電話番号は、今年度の会員名簿に記載してありますので、ご参照ください。

◇井上太郎 (2012) 『辞書の鬼：明治人・入江祝衛』 春秋社

「明治18年、ひたすら生きた英語を学びたいがため、東京・銀座の英語学校へ埼玉から往復56キロの道のりを毎日走りぬいた苦学生」入江祝衛が英語学者であったのは知ってはいたが、「辞書の鬼」であったとは知らなかった。

"Labour Conquers Everything." (努力は何物をも克服する) を生涯の信念とし実行した入江だからこそ、5冊の辞典を独力で編纂するという仕事を成し遂げたのである。

入江祝衛、そして著書の井上太郎、この二人の点と点を結ぶものは、ラフカディオ・ハーンである。2002年、広島ラフカディオ・ハーンの会で風呂先生が入江祝衛の話をされた。それをHPで知った井上太郎氏から、「入江祝衛とハーンについて知りたい。ハーンの会に入会したい。」とのメールをいただいた。

モーツアルトの専門家の井上氏がなぜ？氏は10年前から入江祝衛の自叙伝を執筆すべく準備をされていたのだ。

10年前にいただいたメールの意味が、価値が、やっと理解できた。また、入江をめぐる人と人の接点—ご息女であられた富永そひや(故人)、そして「記憶との再会」を書かれた小泉八雲の子孫である稲垣明男、さまざまな点と点を結びたくなり、果てなく世界が膨らんでいく。(鉄森令子)

◇竹中龍範 (2012) 「Book Reviews『辞書の鬼 明治人・入江祝衛』井上太郎 著」『英語教育』2012年9月号, p.95.

◇LRT Newsletter No.1 (2012年9月1日発行) 英語教育を話し合う会 (LRT: Let's Read and Talk) 代表・上杉 進先生, 顧問・金田道和先生。6月30日に発会式および第1回セミナーを開催。

◇ 日本英語教育史学会第239回研究例会

日時：2012年9月16日(日) 14:00~17:00

場所：広島市未来都市創造財団

東区民文化センター 3階 大会議室  
〒732-0055 広島市東区東蟹屋町10-31

TEL 082-264-5551 / FAX 082-264-5774

参加費：無料

研究発表①

広島文理科大学入試英語問題をチェック

田中正道氏(広島大学名誉教授)

研究発表②

商業科附設時代の小学校英語

—横須賀市高等八幡山小学校の場合—

竹中龍範氏(香川大学)

## 中国・四国支部ニュース

### ◆平成24年度第1回理事会

5月26日(土)の支部総会に先立ち、午前11時より理事会を開催しました(出席者7名)。前年度活動報告、会計報告・会計監査報告、今年度の活動計画について審議を行いました。

会計監査の欠員補充については、平本哲嗣会員を推す声があがり、後日ご本人の了承を得ました。

### ◆平成24年度支部総会

5月26日(土)13時30分より、議長に中村浩路会員を選出し、今年度の支部総会を行いました。

### ①平成23年度活動報告

事務局より昨年度の活動について報告。内容は、(1)支部総会、(2)第1回研究例会(広島)、(3)第2回研究例会(津山)、(4)『英学史論叢』第14号の発行、(5)『ニューズレター』No.66～No.69の発行、(6)理事会の開催(第1回、第2回)、の6項目です。詳細は『英学史論叢』第15号(pp.43-45)をご覧ください。

### ②平成23年度会計報告

### ③平成23年度会計監査報告

本ページ下に両報告を掲載しています。

### ④今年度の活動計画

#### 1) 研究例会

- ・第1回 平成24年5月26日(土)  
(予定通り終了)

広島市・県立広島大学広島キャンパスにて  
例会当日、理事会および支部総会を開催

- ・第2回 平成24年12月8日(土)

今治明德高等学校矢田分校にて  
例会当日、理事会を開催予定

#### 2) 支部研究紀要

『英学史論叢』第15号(予定通り発行)

#### 3) ニューズレター

No.70(平成24年5月)(発行済み)

No.71(平成24年9月)(本号)

No.72(平成24年11月)

No.73(平成25年1月)

## 平成23年度 日本英学史学会 中国・四国支部 会計報告

収入の部		支出の部	
繰越金	172,223	通信費	21,120
年会費	149,000	紀要印刷費	56,280
紀要掲載料	9,000	講師謝礼	20,000
補助金	17,000	事務費	3,781
ゆうちょ銀利子	48	会議費	4,075
		事務用品	7,055
		慶弔費	46,186
収入合計	347,271	支出合計	158,497
		次年度繰越金	188,774

以上、ご報告申し上げます。

2012年5月20日

事務局会計 馬本 勉 ㊟

## 平成23年度 日本英学史学会 中国・四国支部 会計監査報告

各位

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類及び領収書等により監査いたしました。その結果、会計報告の通り、全て適正、正確に会計処理ができていることを確認いたしました。

以上報告いたします。

2012年5月25日

会計監査 山本 勇三 ㊟

会計監査 鉄森 令子 ㊟

## 英学史学会全国ニュース

### ◆「日本英学史学会報」No.128 (9月1日)

- ・〈〈史に聴けば〉〉(26) 日英関係の史料3種 (楠家重敏)
- ・洋学史散歩(4) : 長崎屋敷, 伝馬町牢屋敷跡 (堀 孝彦)
- ・モリ・イガこと広瀬常 : 自立をめざした明治の女子留学生 (加藤詔士) ほか

※支部活動報告として, 中国・四国支部平成24年度総会ならびに第1回(通算66回)研究例会報告, 『英学史論叢』第15号の目次などが掲載されています。

※閲覧希望の方は, 事務局までご連絡ください。

※日本英学史学会(本部)の会員登録には, 中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円, 年会費7,000円)。

### ◆第49回全国大会

開催日: 10月20日(土)~21日(日)

※10月22日(月)は自由見学日

会場: 和歌山大学教育学部  
和歌山市栄谷930

プログラム:

- ・10月20日(土)  
特別講演「陸奥宗光・広吉父子と英学」  
奈良岡聰智(京都大学)  
資料展覧「日本人の英語学び史」
- ・10月21日(日)  
研究発表(計17本。本支部の田邊祐司氏が次の発表をされます)  
「日本英語音声教育史: 大谷正信のもうひとつの功績」 田邊祐司(専修大学)

## 中国・四国支部事務局より

### ◆年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円, 学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願いいたします。

(口座番号) 01360-9-43877  
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

### ◆紀要の配布・販売について

研究紀要『英学史論叢』は, 会員の方へ一部ずつ, 投稿者には所定の部数をお渡ししています。

最新号の追加, ならびにバックナンバーをご希望の方には, 一部1,000円(非会員1,500円)にて販売いたします(郵送料込)。

バックナンバー収載の研究論考等のタイトルは, ウェブサイトにてご確認いただけますが, 詳細は事務局までお問い合わせください。

### ◆第2回研究例会(今治例会)について

今年度第2回(通算67回)研究例会は, 2012年12月8日(土), 今治明德高等学校矢田分校(愛媛県今治市)を会場に開催されます。

詳細は次号のニューズレターにてお知らせします。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

- ・現在, 今治の英学に関する発表を軸にプログラムを調整中です。
- ・テーマを今治に限定しない通常の枠での発表も募集いたします。ご希望の方は, 事務局までご連絡ください(9月30日まで)。なお, 調整の結果, 次回以降の例会にまわっていただく可能性もありますので, お含みおきください。

### 広島英学史の周辺(37)

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ～」, そして「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」という2つの答申を, 中央教育審議会がまとめました。これからの大学教育, 教員養成に大きな影響を与えていくものと思われます。▼「質の向上」が叫ばれて久しい大学教育ですが, 質を測るものさしとして「量」が用いられることは珍しくありません。今回の答申でも, 大学生の「学修時間を増やせ」と。▼我が学生時代は学修とは異なる「いろんな勉強」に多くの時間を割いたように思います。▼これからの時代の学びの質をどうするか。歴史に学ばなくてはならない課題がまた増えました。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No. 71

2012年9月7日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74-1725(直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.71